

附属小学校におけるインターネット事情

教育学部附属小学校 小林 弘 二

1 はじめに

附属小学校が平成7年9月に平和町へと移転した。新校舎内外の学習環境は大変素晴らしく、室生犀星にも歌われた犀川に近く、前田利家公の墓がまつられている野田山の麓にあることからわかるとおり、これらの自然を友とした様々な体験学習活動ができるのである。さらにそれだけにとどまらず、本校はインテリジェントスクールを構想しており、その一つに、インターネットを活用した学習を様々な場で展開している小学校でもある。

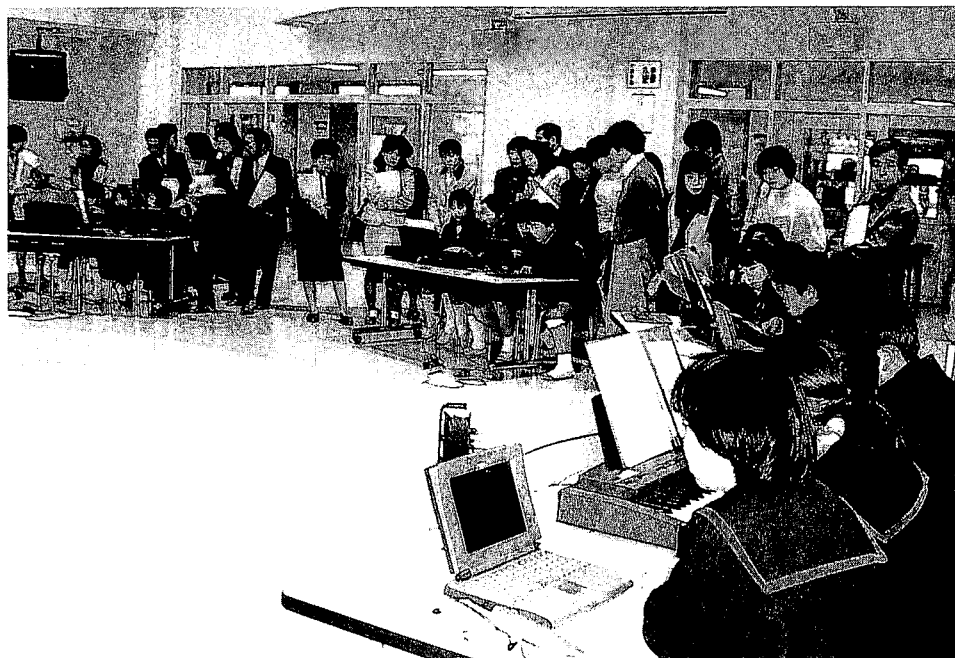
2 インターネット活用例

(1) オープンスペース

普通教室は、壁を取り払ったオープンスペースになっており、各学年のフロアにはインターネットに接続できる端末が2台ずつ配置されている。子ども達は、授業中はもちろん、休み時間や放課後などでも理科や社会科などの学習の資料作りにと、インターネットを使って様々な情報検索に活用している。

また、インターネットによるテレビ電話的な利用を和歌山大学教育学部附属小学校とで進めている。

丸1日中回線をつないだままにしておき、普段の様子も含め、いろいろな情報交換が子どもたち同士で自然に交信できるようにしている。

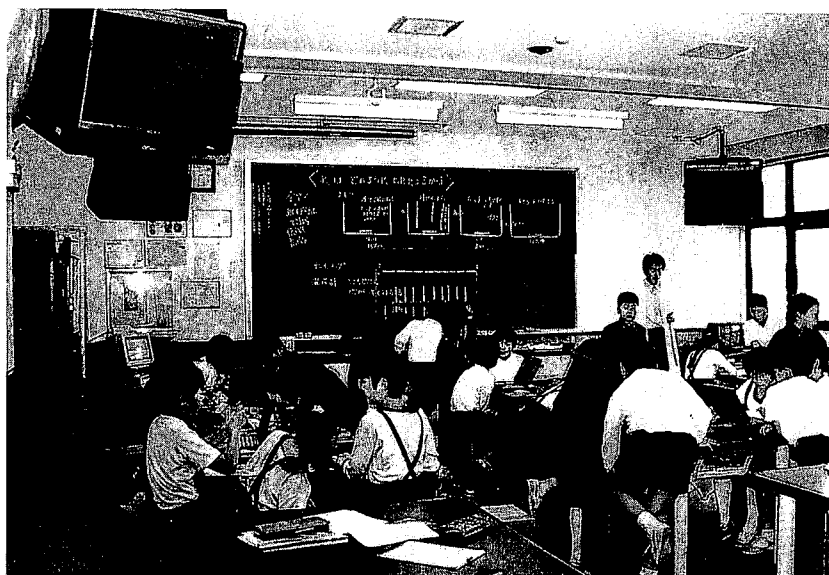


ランチルームでの音楽の授業

(2) 視聴覚コーナー

図書室には、書籍中心の図書コーナーと視聴覚・情報機器を中心とした視聴覚コーナーとに分けられている。

この視聴覚コーナーにもインターネットに接続できる端末があり、様々なメディアをうまく組み合わせて課題や問題を解決していく、メディアミックスを意識した学習の場となっている。



無線LANを使った理科の授業

(3) コンピュータルーム

3階のコンピュータルームには22台のコンピュータがあり、そのどれもがインターネットと接続できるようになっている。ここでは、本校独自の情報教育カリキュラムに基づき、ネットワークリテラシーの確立・向上をめざした教育実践がなされている。たとえば、中学年による自己紹介ホームページ作りや高学年の質問メールの発信など、これまでの教室や学校という枠を超え、情報発信を基軸とする開かれた学習を試みている。



コンピュータ室

(4) 教員・職員の活用

教官室をはじめとした各準備室の全室に、インターネット端末機があり、本校の教官や職員は主に電子メールにしている。日本国内だけでなく世界中の方々とメールのやりとりから新しい教育創造への模索を試みている。また、行事等のアンケート調査なども電子メールを使うことで、集計の手間が大幅に改善されている。簡単な諸連絡にもメールを使うことが多く、朝登校するとまずメールを開いてからという習慣が付きつつある。



体育の授業風景

3 問題点

インターネットは教育現場において大変有効な手段の一つであることは間違いないのであるが、現段階では以下のような問題点がある。

(1) 回線の細さ

本校への回線は、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属高校の4校園で共通のセグメント1本だけを使っていて、しかも回線速度も速い方とはいえない。さらなるインターネット環境の整備を強く望むものである。

(2) 教育学部の教育

教育現場では、先に述べたような新しい教育が始まっているのにも関わらず、教育学部の学部生にはこのような現実や実態に対応できるような、十分な知識もリテラシーも付けられていないままである。大学教育においてもアカウンタビリティを現実問題と認識し、カリキュラムの早急な改善と対応が必要であると考えている。